

## 第16回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラム 助成申請書

2024年 10 月 10 日

団体名	ゆめ・まち自然学校
主な事業内容 (50字程度)	自然環境の保全のために、主に子どもたち・親子を対象に、自然体験教室や観察会等を実施。
団体設立	西暦 1999年 4月 設立 ※2022年3月以前に設立した団体が対象です。

## 1. 活動実績 ※用途を問わない助成金のため、団体が行う全事業を対象にお書きください。

①活動地域について、該当する市町をすべて○で囲み、その他の地域での活動があればお書きください。
【沿線地域】 京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、 <b>大阪市</b> 、豊中市、 <b>池田市</b> 、吹田市、高槻市、茨木市、 <b>箕面市</b> 、摂津市、島本町、 <b>豊能町</b> 、神戸市、尼崎市、西宮市、 <b>芦屋市</b> 、伊丹市、宝塚市、川西市、 <b>猪名川町</b>
【その他の地域】 国内(都道府県): 宮城県 海外: ベトナム
②団体の活動の目的は何ですか?
自然体験等を通して、次代を担う子どもたちを中心とする人々に環境保全の大切さを伝え、将来にわたって豊かな自然環境を保全することを目的とする。
③活動をとりまく社会的背景についてお書きください。
現代の便利な生活は、多くの自然環境を犠牲にして成り立っており、自然環境の保全に配慮した持続可能な社会にしていくには、これまでの生活スタイルや価値観を見直し、意識と行動を変える必要がある。そのためには、次代を担う子どもたちに、豊かな自然の大切さを伝え、環境を守る意識を育てることが重要であるが、これが難しい状況にある。まず、特に都市部においては、自然と触れあえる機会が身近に無く、自然がもたらす豊かさやその恩恵を知る機会が少ない。また、子どもたちに自然のなかで様々な体験をしてほしいと望む親は多いが、親自身にそのような体験が少ないため、子どもたちに自然体験の機会を提供しにくいのが現状である。そこで、こういった状況を打破すべく、子どもたちとその親世代を中心に、自然体験のプログラムを提供し、また教え伝える側(リーダー)として活躍できる人材を養成することで、環境保全の重要性を啓発する活動が求められている。
④団体の活動内容について、活動頻度や参加者数などが分かるよう具体的にお書きください。
【2023年度の主な活動内容(沿線地域)】* 箇条書きでお書きください。
①自然体験教室(子ども向け、親子向け:月2回ずつ計48回開催、年間参加者のべ1,400名)
②自然観察会(子ども向け、親子向け:月1回ずつ計24回開催、年間参加者のべ540名)
③リーダー養成講座、スキルアップ講座(子ども向け、大人向け:年4回ずつ計16回開催、年間参加者のべ480名) ※自然体験教室等の運営に関わるリーダーとなる人材を育成・スキルアップさせる講座
④△△山キャンプ場の管理運営(〇〇市の指定管理者、年間300日運営)
⑤企業の社員研修(コミュニケーション力アップ研修)の実施(3社より受託、参加者のべ100名)
⑥情報誌「ゆめ・まち自然学校通信」の発行(月1回計12回発行)
⑦講師の派遣(教育委員会、PTA、子ども会等からの依頼、年間40件)
⑧環境NPOネットワーク会議の事務局(10団体が所属、月1回計12回開催)
【2023年度の主な活動内容(その他の地域)】* 箇条書きでお書きください。
①自然体験キャンプ(チャリティイベントで繋がったNPOと共催で宮城県にて年2回開催。年間参加者80名)
②ベトナム植樹ボランティアツアー(環境NPOネットワーク会議の団体と共催で年1回開催。年間参加者20名)
2023年度の主催事業の年間参加者数 計 延べ 約 2,200 人(スタッフ含む) ※概数で結構です
2023年度の年間活動日数 計 約 240 日
【上記以外の過去に取り組んだ活動内容】* 主要な順に箇条書きでお書きください。
・環境NPOネットワーク会議の参加団体の共催で、東日本大震災のチャリティイベント「自然ふれあいフェスティバル」を開催し、参加費の一部を被災地支援団体へ寄付(2023年度、参加者400名、40万円を寄付)
・市民提案事業として、〇〇市から△△山の自然環境調査を受託(2022年度)

<p><b>⑤ ④の活動によって、社会や活動の参加者がどのように変化しましたか？</b></p> <p>・参加者の環境に対する意識の向上          自然体験教室や自然観察会の参加者に対するアンケートでは、「水がおいしい！この水をもたらず自然環境を守りたい」「身近に豊かな自然があることを知ることができて良かった」「自分にもできることとして、リサイクル活動などに取り組みたい」などの感想が寄せられており、活動を通じて参加者に豊かな自然の大切さを伝え、環境を守る意識を向上させることができた。</p> <p>・参加者のすそ野の広がり          リーダー養成や各地への講師派遣、環境NPOネットワーク会議での連携等により、より多くの人々に環境保全の大切さを伝えることができ、その結果、自然環境を守る一助となった。</p>
<p><b>⑥ 今までに受けた助成金、主な受賞歴をお書きください。</b></p> <p>○△基金「環境教育プログラム開発事業」(スキルアップ講座の開発、2018年度、助成金額100万円)          ■◇助成金「環境活動助成」(自然観察会で使用する道具の購入、2020年度、助成金額30万円)</p>

**2. 活動計画 ※使途を問わない助成金のため、団体が行う全事業を対象にお書きください。**

<p><b>① 2024年度に力を入れている取組みをお書きください。</b></p> <p>・自然体験教室の参加者層拡大のため、内容を見直し、より分かりやすく楽しく学べるように刷新する。          ・自然体験教室や観察会の開催地域を増やすために、リーダー養成講座の開催頻度を増やし、リーダーの人数を増強する。          ・コロナ禍など、どのような社会の状況にあっても、自然について学ぶ機会を絶やさないため、現場での体験活動と併せ、オンラインを活用した観察会や自然体験教室の新たなプログラムを引き続き開発して実施する。</p>
<p><b>② 2025年度に力を入れたい活動をお書きください。</b></p> <p>・オンラインを活用した観察会や自然体験教室の新たなプログラムのメニューを増やし、より分かりやすく楽しく学べるよう工夫を加えながら実施する。          ・リーダー養成講座を対面開催に戻し、さらに、オンラインでもスキルアップ講座の内容を充実させ、新しくリーダーになった層を中心に参加を呼びかけ、リーダーの質の向上に取り組む。          ・ひとり親家庭向けのプログラム実施のための助成金獲得、および寄付(サポーター)獲得の強化。</p>

**3. 助成金の用途・効果 ※助成金の使途は問いませんが、選考の参考にします。**

<p><b>① 助成金を何に使いますか？ できるだけ具体的にご記入ください。</b></p> <p>経済的に困難な状況にあり、参加費等の負担が厳しいひとり親家庭の子どもたち・親子にも参加の機会を提供できるよう参加費の補助制度を新設し、継続的な補助制度とするためにサポーター制度も新設するため、以下の用途で使いたい。</p> <p>・経済的に困難な状況にあり、参加費等の負担が厳しいひとり親家庭の子どもたち・親子への参加費の補助          ・継続的な補助制度とするためにサポーター制度の広報費用(チラシ・パンフレットの印刷、Webページの制作等)</p>
<p><b>② 助成金を使うことによって、どんな効果が期待できますか？</b></p> <p>近隣市町村の教育委員会やPTA等との懇談のなかで、「子どもの貧困」のことが話題になっており、当校でも何かできることを模索していた。このプログラムが実施できると、通常のプログラムでは、参加費の負担が厳しく参加をあきらめてきた子どもたち・親子にも、自然の中で豊かな経験をしてもらうことができる。また、その子どもたちがプログラムに参加することによって、環境保全に携わる仕事を選択したり、身近に接する大人以外の人と出会い、ロールモデルとなる大人を見つかることができたりするなど、子ども自身の将来にも大きな影響を与える効果が期待できる。</p>

#### 4. 地域との連携、その他

①他の市民団体・企業・自治体等とどのように協力していますか？

- ・環境保全に取り組む近隣のNPOと共に「環境NPOネットワーク会議」を実施。
- ・企業3社より社員研修の企画受託。
- ・〇〇市より△△山キャンプ場の指定管理を受託。

②団体の強み、アピールポイントについてお書きください。

自然体験教室の開催は、任意団体時代から30年以上継続しており、これまで教室に参加した子ども・親子は10,000人を超えている。また、長年の地道な活動により、近隣市町村の教育委員会やPTA等と信頼関係を築いており、多くの講師派遣や委託等の依頼がある。その他、環境NPOネットワーク会議の事務局を担うなど、環境保全に取り組むNPOとのネットワークがあり、連携して様々な取り組みを行っている。

#### 5. 団体の活動と「未来のゆめ・まちプロジェクト」および「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連

団体の活動が、沿線地域の「未来にわたり住みたいまち」づくりのどのように寄与するのか、「未来のゆめ・まちプロジェクト」の重点領域(募集要項の7ページご参照)を踏まえたうえで、SDGs(募集要項の8ページご参照)を意識して、自由にお書きください。

※「部門Ⅱ」に応募の方は、主に「未来のゆめ・まちプロジェクト」の重点領域との関連についてお書きください。

子どもたちとその親が、豊かな自然の大切さを学び、環境を守る意識をもつことは、持続可能な社会に繋がるとともに、地域への愛着ともなり、親子にとって沿線のまちが魅力的で、住み続けたいと感じるといえる。特に、この助成金で実施しようとしている、親の経済的な事情などにかかわらず自然体験や学びの機会を提供する事業や、今後、取り組みを進めていく障がい児の受け入れスキル向上は、貴プロジェクトの重点領域(2)⑦「障がい児、交通・災害遺児、一人親家庭、社会福祉施設等の児童を支援する活動」に合致するとともに、重点領域(1)②「自然環境・生物多様性の保全につながる活動」にも合致する。

※SDGsの取り組みについては、様式3に記載する。

#### 6. 団体の収支 ※用途を問わない助成金のため、団体全体の収支をお書きください。

(単位:円)

	2022年度 (2022年4月～2023年3月)	2023年度 (2023年4月～2024年3月)	2024年度(予算) (2024年4月～2025年3月)
会費・寄付	2,035,000	2,100,500	2,200,000
補助金・助成金	2,000,000	2,000,000	1,500,000
事業収入	8,060,235	7,678,925	7,780,000
その他収入	125,987	204,688	200,000
収入合計	12,221,222	11,984,113	11,680,000
人件費 ※1	4,600,098	5,006,780	5,500,000
事業費 ※2	5,401,753	5,005,671	5,000,000
事務費 ※3 (賃借料・水道光熱費等)	1,806,045	1,806,045	1,900,000
その他経費	105,005	123,087	150,000
支出合計	11,912,901	11,941,583	12,550,000
前期繰越金	501,089	809,410	851,940
次期繰越金	809,410	851,940	△18,060

NPO 法人の場合は、以下を参考にしてご記入ください。

- ※1 人件費：活動計算書の事業費（人件費）と管理費（人件費）を合算した金額
- ※2 事業費：活動計算書の事業費「その他経費」の合計
- ※3 事務費：活動計算書の管理費「その他経費」の合計

3 ※各記入欄の幅は伸縮して構いませんが、**様式2全体で4ページ以内**の範囲で、読みやすくまとめてください(別紙不可)

## 7. 運営体制

①代表者			
代表者氏名	ふりがな ゆめ まちこ 夢 まちこ	役職	理事長
代表者略歴	〇〇大学△△学部卒。□□(株)在職中の1980年から地域の環境保全活動に携わる。1990年当校の立ち上げに関わり、専従スタッフに。1999年に法人化、2012年より現職。環境NPOネットワーク会議の理事も務める。		住所(市区町村のみ) 大阪市
②役員・会員名(5名まで、代表者以外をお書きください)			
役職	氏名	他の活動団体・所属団体等	住所(市区町村のみ)
副理事長	阪急 歌子	〇〇大学非常勤講師	豊中市
理事	阪神 虎夫	△△環境委員会理事	大阪市
理事	阪急 鉄子	会社員	京都市
会員	阪神 鉄郎	特定非営利活動法人□□理事	神戸市
会員	阪急 夢	会社員	大阪市
③会員数等			
会員数	400人 / 20社・団体		
ボランティア数	150人		
事務局スタッフ数 ※有償無償問わない	10人(内、専従者数5人)		
④組織運営における強み、アピールポイント、工夫、努力などについてお書きください。			
当校の理事・会員には、大阪を中心とした関西で環境保全に取り組むNPOのメンバーが多くおり、各NPOと連携して事業に取り組むことができる。また、団体運営は150人のボランティアによって支えられており、事業の運営、見直しなどは、ボランティアと事務局が連携して取り組んでいる。ボランティアに対しては、オリエンテーションや研修等を実施しており、それらの場でボランティア同士が情報交換できるよう工夫している。			
⑤災害や感染症等の社会状況の変化があった際の、活動継続のための体制や備えなどをお書きください。			
ボランティアも含めてスタッフが事務局に行くことができないことを想定し、在宅で事業が推進できる体制を整えつつある。具体的には、オンラインの会議システムやオンラインサーバーの使用により遠隔でも会議が行えたり、データの共有ができるようになっている。現在、有事の際に事業をストップさせずに、その時々で必要な事業を推進するための検討を進めている。			

## 8. アンケートのご協力をお願い

阪急阪神 未来のゆめ・まち基金をどこで知りましたか？当てはまるもの全てに○印・記述をお願いします。			
1. 電車の中吊りポスター	2. ちらし (設置場所は？ ・駅 ・その他 )		
3. 情報誌 (名称は？ ・『TOKK』 ・『ホッと！HANSHIN』 ・その他 『COMVO』 )			
4. ホームページ (どこのホームページ？ ・阪急阪神ホールディングス ・その他 大阪ボランティア協会 )			
5. メールマガジン (どこのメルマガ？ )			
6. SNS (どこのSNS？ 阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト公式 Instagram、大阪ボランティア協会 X(旧 Twitter) )			
7. 知人に聞いて (誰から？ )			
基金の概要および申請書の書き方等の説明動画はいかがでしたか？当てはまるもの1つに○印をお願いします。			
1. とても役に立った	2. 役に立った	3. あまり役に立たなかった	4. まったく役に立たなかった
5. 動画を見ていない			

助成申請書の提出締め切りは、**2024年10月16日(水)13時必着**です。

※情報の取扱いについて:提出いただいた資料に記載された個人情報、本事業の主催者(阪急阪神ホールディングス株式会社)及び助成事務局(社会福祉法人大阪ボランティア協会)において管理し、本事業運営・審査・団体への連絡に使用します。この用途以外に使用することはありません。